

秋田職業能力開発短期大学校

開校はもうすぐ

キャンパス建設急ピッチ

大館に初めての高等教育機関「秋田職業能力開発短期大学校」が、四月に開校します。学生募集は、昨年十一月に推薦入試が終わり、一般入試の願書が二月五日まで受け付けられています。また、キャンパスの建設は、本館が既に完成。実験実習棟、体育館、学生ホールなどの校舎、学生寮なども、四月の開校に向け急ピッチで進められています。春には、キャンパスで学びそして語り合う学生たちの声が聞こえてきます。



完成した本館

気軽に立ち寄れる

キャンパスに

同短大は、扇田道下に建設され、敷地面積が五万五千平方メートル。キャンパスには、中心部にグラウンド、東側に校舎、西側に学生寮が配置され、南側一帯に緑のゾーンが設けられます。校舎は、本館(四階建て)実験実習棟(二階建て)、体育館、学生ホールからなっています。本館に隣接してテニスコート(全天候型二

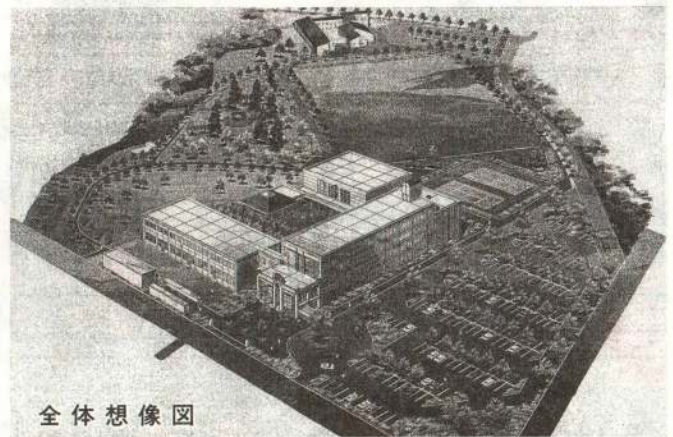
面)、グラウンド、学生寮と続いています。学生ホールは、食事や休息、コミュニケーションのための場で、ぬくもりが感じられるよう内装には秋田杉材がふんだんに使われることになっています。学生寮は、全室個室で六十室。男女の定員を調整できるように可動間仕切り壁を採用することになっています。また、樹木の植栽や芝が張られる緑のゾーンには遊歩道やあずま屋が設けられ、市民が気軽に立ち寄り、憩える場として開放することになっています。

本館建設などの第一期工事は昨年十一月に完工。実験実習棟、体育館、学生ホール、学生寮などの第二期工事は、七〇%を超える進みぐあいで、三月下旬には完工する予定です。

独自のカリキュラムで

実践技術者を育成

同短大は、産業の高度技術化



全体想像図

に対応した最新の設備を備え、充実した独自のカリキュラムと少数精鋭教育により、技術革新や多様なニーズに対応できる即戦力の実践技術者(テクニシャン・エンジニア)を育成します。開設学科は、生産技術・電子技術・情報処理・住居環境・産業デザイン(の五科目。学生定員は各科目二十人の一学年百人となっています。学生募集は、昨年十一月に推薦入試が終わり、一般入試が二月十七日。三月二日に合格者が決まります。大館に初めて設置される高等教育機関の秋田職業能力開発短期大学校の開校となります。

市長リポート



No.37

行政機構改革

一般的に組織はどんどん肥大化し、複雑化していきまますから時代や情勢に合うよう変えていく必要があります。それは、行政機構にもいえることです。四月から市役所の機構の一部を改正します。その目的の第一は、皆さんに分かりやすい組織にすること。

第二は、効率化を図ること。現在、市では多くのプロジェクトを抱えています。それらを効率よく、スムーズに進めていけるようにしていかなければなりません。

第三は、積極的に働き掛ける組織にすること。対応型ではなく、自ら問題を掘り起こして行動していけるようにしていかなければなりません。

行政の役割である市民の夢を実現していくため、以上の三点を心に置いた改正です。最終的には、市民の代表である議会と相談しながら決めていきたいと思っています。

小畑 元